

デルフィニウム ダイヤモンドブルー

学名: *Delphinium chinensis*

種子粒数の目安: 600-850 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.8 から 6.2 の範囲とする。初期の培地の養分は中庸とし、EC 値は 0.75mmhos/cm(1:2)以下とする

播種

288 穴のプラグトレイを用いる。ヨーロッパで用いられている 264 穴のトレイの利用も可能。パーミキュライト等で覆土する

ステージ 1 - 発芽には 5 から 7 日要する

地温: 発芽時の地温は 20-21°C

光条件: 条件として光はあったほうがよい

水分: 培地の水分は、ステージ 1 の間は適度に湿潤の状態 (level 4)を保つ

湿度: 幼根が現れる頃までは相対湿度 95%以上を維持する

ステージ 2

地温: 18-20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 培地の水分を少し抑え、適度な湿潤から標準 (level 4 から level 3)にして、根が培地の中を育つように促す

肥料: 濃度をレート 1(100ppm(N)以下、EC 値が 0.7mS/cm 以下)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 18-20°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 表面が薄茶色に乾いてから(level 2)水を与えるような管理を続ける

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2mS/cm)に上げる

矮化剤: プラグ生産ステージでは通常は不要

ステージ 4

地温: 15-18°C

光条件: 温度条件が管理されているなら、53,800 ルクス(5,000 f.c.) まで光条件を上げることが可能

水分: ステージ 3 と同じ

肥料: ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。pH は 5.8 から 6.2 を適正とし、培地の初期の養分量は中庸とする

温度(生育適温)

移植後は、施設栽培では昼間の温度を 18 から 21°C、夜間の温度を 13 から 17°C の範囲で設定する。ハウスの外が好条件であると考えられる場合は、3、4 週間ハウスの中で養生をしてから、コールドフレーム(冷床育苗)の要領で、ハウスの外で開花期まで生産を行うことが可能である。理想的な外気適温は昼間が 15 から 21°C、夜間が最低で 10 から 12°C。デルフィニウムは、さらに低い温度にも耐える植物で、最低 5°C くらいの温度でもとくに問題はない。ただし、温度が高いと株が十分に成熟する前に花をつけてしまうことがあり、また温度が低すぎると開花まで時間を要することがあるので適切な管理が必要である

光条件

とくに電照による補光などは必要ないが、適正な生育温度の中で管理できるのであれば、日照(照度)条件はできるだけ高くする。北西ヨーロッパのような高緯度の土地では、シーズンの初期のうち HID ライトを用いた補光によって、株の性質を向上させ生長を早めることにつながる

かん水

極端な過湿や乾燥は避ける。株を枯らさないように注意する

肥料

移植の後 1 週たってから、主としてリン酸分が低くカリウムの高い硝酸態の肥料をレート 4(225-300ppm(N)、EC 値が 1.5-2.0 mmhos/cm)で週に 1 回与える。pH は 5.8-6.2 の範囲を維持する。あるいは上記の範囲で EC 値と pH が維持されるのであれば、より高頻度に、レート 3(175-225ppm(N)、EC 値が 1.2-1.5mS/cm) の肥料を与えるようなやり方でも可能

矮化剤(PGR)

移植後にボンザイ 20ppm で一度、葉面散布する。初回は移植後 4,5 週で行い、必要であればその 2 週後に 2 回目の処理をする。ヨーロッパの気候条件では、ボンザイ 5-7ppm の葉面散布注処理が行われ、効果が確認されている

ピンチ

不要である

コンテナサイズ

18cm ポット: 1 から 3 本定植

20cm ポット: 3 本定植が標準

春夏にかけての作型であれば、18cm ポットへ 3 本移植が可能

※18cm に満たないポットでは、作型によっては培地の容量不足のため株が十分に育たない可能性があるので注意する

平均的な生産期間

播種から移植まで: 6 から 7 週(288 穴トレイ)

移植から出荷/開花まで: 12 から 15 週

低温環境で栽培する場合は、より時間(期間)を要する。ただし低温条件の下で生産した方が高い質の製品に仕上がる

出荷のタイミングとしては、下側の 3 分の 1 くらいの花が咲き始めた頃合を見て出荷すると、輸送中の花落ちが少なくて済む

病虫害について

病気: ウドンコ病にかからないように注意する

花壇定植や造園について

- ダイヤモンドブルーは特別な低温処理をしなくても開花する初年開花の品種
- 日あたりのよい場所に定植します
- 株間は 30-35cm とり、水はけのよい場所に定植します
- 植付後は草丈が 40 から 60cm、株の直径が 25 から 30cm になります

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。